

・海外感染症流行情報 2025年2月**(1) 全世界：インフルエンザ、COVID-19の流行状況**

北米ではインフルエンザの患者数が2月に入っても増加していますが、ヨーロッパや東アジアでは減少傾向にあります（WHO Influenza update 25-2-20）。日本でも2月になり患者数が減少しており、ほとんどの都道府県では注意報以下になりました（厚生労働省 25-2-21）。

COVID-19の患者数は日本や米国で2月になり減少しています（厚生労働省 25-2-21、米国 CDC 25-2-21）。欧州では一部の国を除き、今冬は患者数増加がみられませんでした（E C D C 25-2-21）。ウイルスの種類はX E C型が半数近くを占めていますが、今年に入りKP型の子孫にあたるLP8.1型が増加傾向にあります（WHO 25-2-13、国立感染症研究所 25-2-17）。

(2) 全世界：エムボックスの流行状況

エムボックスで重症化しやすい1b型の患者は、アフリカのコンゴ民主共和国、ブルンジ、ウガンダなどで引き続き発生しており、ここ1ヶ月はウガンダでの患者数が増えています（WHO Mpox 25-2-13）。アフリカ以外ではタイ、英国、U A Eなどで、新たな患者が確認されました。

(3) アフリカ：東アフリカでのウイルス性出血熱の発生

東アフリカのウガンダでエボラ出血熱の患者が発生しました。首都カンパラ近郊などで9人の患者が確認されており、このうち1人が死亡しました（WHO 25-2-21）。初発患者は医療従事者で、家族内および病院内で拡大した模様です。タンザニアの東部では、マールブルグ熱の流行が1月中旬から発生していますが、2月になり患者の増加は見られていません、（WHO 25-2-14）。現在までに疑い患者は10人で（2人確定）、全員が死亡しました。

(4) 北米：米国での鳥インフルエンザH5N1型の流行状況

米国で昨年発生している鳥インフルエンザH5N1型ウイルスの患者は、2月下旬までに70人になりました（米国 CDC 25-2-24）。このうち、ウシや家禽の牧場労働者が65人で、大多数が軽症ですが、2月中旬にワイオミング州で発病した患者は、自宅で飼っている家禽から感染しており、入院中です。

(5) 北米：米国とカナダでの麻疹の流行

米国では今年になり麻疹患者が93人発生しています（米国 C D C 23-5-2-21）。大多数の患者はテキサス州の大学での感染でした（ProMED 25-2-21）。カナダでも東部のオンタリオ州で、1月から92人の麻疹患者が報告されています（ProMED 25-2-22）。欧米諸国に滞在する場合でも、麻疹感染の既往が無い人や、ワクチンを2回受けていない人は、ワクチンの追加接種を受けることを推奨します。

(6) 南米：ブラジル、コロンビアでの黄熱患者発生

米州保健機関（P A H O）は25年2月6日に南米での黄熱流行に関するアラートを発しました。患者が都市周辺でも発生しているためです。ブラジルではサンパウロ州で11人の患者が報告され、うち8人が死亡しました（ProMED 25-2-15）。コロンビアでも首都ボゴタ近郊のトリマ県で、29人の患者（14人死亡）が報告されています（ProMED 25-2-16）。

(7) 南米：ブラジルでのデング熱患者増加

中南米では昨年、過去最多となる1300万人のデング熱患者が発生しており、このうち1000万人がブラジルからの報告でした（米州保健機関 25-2-7）。同国のサンパウロ州では、今年1月も昨年同期の2倍にあたる20万人の患者が確認されており、さらに大きな流行になることが懸念されています（ProMED 25-2-24）。

・日本国内での輸入感染症の発生状況（2025年1月13日～25年2月9日）

最近1ヶ月間の輸入感染症の発生状況について、国立感染症研究所の感染症発生動向調査を参考に作成しました。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr-dl/2025.html>

(1) 経口感染症：輸入例としてはコレラ3人、細菌性赤痢2人、腸管出血性大腸菌感染症2人、アメーバ赤痢2人、A型肝炎2人、ジアルジア症1人が発生しています。コレラは全例がミャンマーでの感染でした。

(2) 昆虫が媒介する感染症：デング熱は14人発生し、前月(9人)より増加しました。感染国はインドネシア(7人)、フィジー(3人)が多くなっています。チクングニア熱が3人発生し、インドネシア、スリランカ、ブラジルでの感染でした。マラリアの患者は1人で、アフリカのトーゴでの感染でした。

(3) その他の感染症：麻疹の患者が1人発生し、ベトナムでの感染でした。